

子ども学フォーラム（全2回）

＜家族＞であることー模索と選択のストーリーー

第2回 講演とラウンドテーブル

＜家族＞で居続けること
アルコール依存症の患者とその家族との対話

＜家族＞は自然発生的に生まれるものではありません。家族は＜家族＞であるための不断的努力を続けて＜家族＞でいることができます。長い時間をかけて紡ぎ出される＜家族＞の歴史は、＜家族＞の、繰り返される模索と選択のストーリーでもあります。

第2回では、アルコール依存症患者とその家族との対話を通して、＜家族＞で居続けることの意味を探ります。アルコール依存症は、患者本人だけでなく家族の問題でもあります。家族の間における「ありがたい家族像」の衝突の結果でもあります。患者とその家族にとって「＜家族＞で居続ける」ことは、多大な努力と、新たな家族像の模索、それに伴う選択と意思決定のストーリーを書き換え続けることではないでしょうか。

2012年12月15日(土) 午後 1時30分～4時

奈良女子大学 記念館2階 講堂(重要文化財)

講演

対人援助職は援助職自身を救う為にある
ー援助職自身が当事者であることを自覚するとき

河本泰信（岡山県精神科医療センター、医師）

会場

正門を入れて
正面の建物です

ラウンドテーブル

奈良県断酒連合会会員

コーディネーター 真栄城輝明（本学教授）

プロフィール

河本泰信（こうもとやすのぶ）



1988年、岡山大学医学部卒業。慈圭病院、岡山大学医学部附属病院精神科神経科、県立岡山病院医療部長を経て、2008年に岡山県精神科医療センター院長補佐（依存症ユニット担当）。2012年、同センター医監。日本アルコール精神医学会評議員、日本アルコール薬物医学会評議員、日本内観学会評議員、日本精神神経学会認定精神科専門医、日本温泉気候物理医学会認定温泉療法医。



対象

一般市民、教育・保育関係者、学生・院生ほか

参加費

無料

※E-mailおよびFaxによる事前申し込みを承っております。当日参加も関係いたします。

お問い合わせ先

奈良女子大学地域貢献事業「次世代自立支援の子ども学」事務局（代表：真栄城輝明）

電話/FAX 0742-20-3957

メール kodomo-gaku@cc.nara-wu.ac.jp

ホームページ <http://www.nara-wu.ac.jp/kodomo-gaku/>

